

第1章 はじめに

近年、自動運転車の社会実装を早期実現するため、国内外の自動車メーカー等による開発競争により自動運転技術は著しく進展しています。システムが全ての運転タスクを実施する自動運転レベル3以上の車両については、レベル3の自動運行装置搭載車の販売が開始され、レベル4の自動運行装置搭載車の開発も進められています。

東京都では、都心部を中心に慢性化している交通渋滞、高齢者等による交通事故、免許返納に伴う移動手段の確保、公共交通機関・物流業界におけるドライバー不足、自動車交通による環境負荷など、様々な課題を抱えています。これらの課題解決に資すると考えられている自動運転技術は、早期の導入・普及が求められています。

また、これらの課題解決は、SDGs（Sustainable Development Goals）の達成にも寄与すると考えられます。

このような中、東京都都市計画審議会における「2040年代の東京の都市像とその実現に向けた道筋について 答申」（2016年9月）において、「自動走行システムにより、自動車交通の安全性が飛躍的に向上し、高齢者や子育て世代の自由な移動、ドライバー不足の解消・効率化が実現」と提言されています。

また、「2020年に向けた実行プラン」（2016年12月）、「都市づくりのグランドデザイン」（2017年9月）においても、自動運転技術が普及した社会を見据えた都市づくりへの展開に向けた検討が位置付けられ、国・民間の取組や都民アンケート調査等を踏まえ、自動運転車の活用の方向性について検討を行ってきました。

「自動運転社会を見据えた都市づくりの在り方（以下「在り方」という。）」は、喫緊の社会的課題に対応するため、都心部や多摩・島しょ部などの地域特性や自動運転技術の普及を見据えて、都市づくりの基本的な考え方を提示するものであり、2019年11月に学識者等による検討会を立ち上げ、議論を重ねると共に、2021年12月には、都民の皆様からの御意見、御提案をいただき、取りまとめたものです。

今後も、自動運転技術に関する最新の動向等を踏まえ、都市づくりへの展開に向けた検討を続けていきます。

関連する主な SDGs



1.1 目的

東京都では、少子高齢化など社会経済状況が大きく変化する中で、目指すべき東京の姿と、その実現に向けた都市づくりの基本的な方針と具体的な方策を示す「都市づくりのグランドデザイン」や「未来の東京」戦略に示す目指すべき東京の将来像の実現に向けて、車から人へ力点を移し、コンパクトでスマートなまちづくりの取組を推進することとしています。その上で、急速に技術革新が進む自動運転技術をこれからの都市づくりに有効に活用していくことができるよう、技術開発や普及の動向を見据えて、道路空間等の整備の在り方や地域特性に応じた自動運転サービスの在り方に関する基本的な考え方を取りまとめました。

また、本在り方は、都内の各自治体等が都市計画等の将来計画を策定する際や、自動運転技術の活用に向けて交通サービスの方向性の把握や導入の検討をする際に活用していきます。また、都や各自治体等が自動運転技術の活用に対する都民の社会受容性の醸成等を図る際にも活用していきます。

なお、今後の技術開発等を踏まえて適宜本在り方を更新し、最新の技術の動向を関係機関等に情報共有していきます。

1.2 対象区域

東京都全域（島しょを含む。）とします。

1.3 目標時期

本在り方の上位計画である「都市づくりのグランドデザイン」が目指す 2040 年代を目標時期に設定します。

1.4 位置付け

「2020年に向けた実行プラン」(2016年12月)、「都市づくりのグランドデザイン」(2017年9月)において、自動運転技術が普及した社会を見据えた都市づくりへの展開に向けた検討が位置付けられています。さらに、「未来の東京」戦略でも、戦略9「都市の機能をさらに高める戦略」において、「地域特性に応じたスマートなまちづくりの展開」として自動運転社会を見据えた都市づくりに向けた取組が位置付けられています。

本在り方は、都市インフラの整備や交通サービスなど都市づくりに対する自動運転技術の活用に向け、都内の各自治体や事業者等の関係者と連携した将来の都市交通計画等の策定に当たっての指針として位置付け、自動運転技術の開発動向等も踏まえて、継続的に検討していきます。

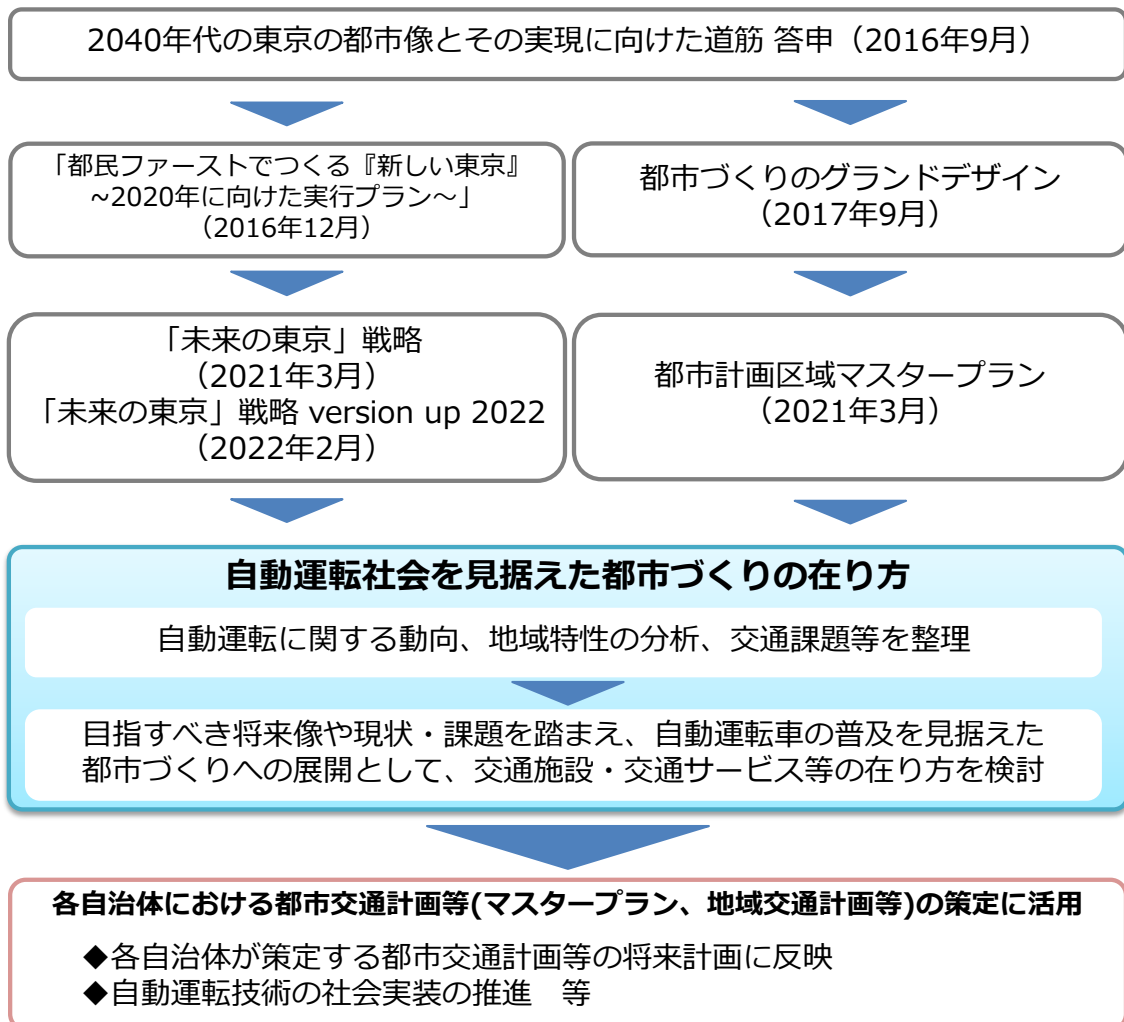


図 1-1 「自動運転社会を見据えた都市づくりの在り方」の位置付け